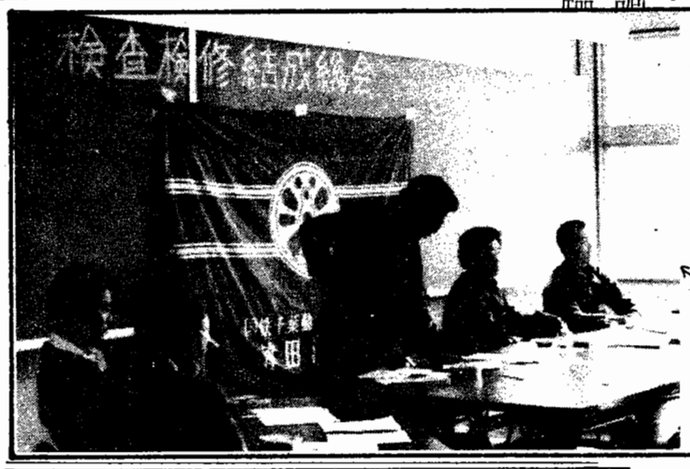
日刊 動労千葉
82.11.30
No. 1207
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七



津田沼支部（11/26）検査検修分科会 結成総会かちとる

写真 椎津新会長

記事・写真＝支部通信員発

11月26日12時から講習室において、組合員30名中25名の参加のもと、津田沼支部検査検修分科会結成総会を開催し、圧倒的に成功した。

検修合理化を粉砕し、12月ゼネストへの進撃を確認

総会は、司会・杉本君（検修）の「新たな闘う体制を作り、12月ゼネストを闘い、来春3月三里塚・国鉄決戦の一大爆発へむけ進撃しよう」との挨拶で、議長に水野君（検修）を選出して開始された。最初に石渡支部検修分科会長が全役員を代表して「この間の闘いを更に強化・発展させ、検修合理化粉砕のために、検査分科と検修分科を合同し強力な闘争体制を作ろう」と挨拶を行なった。

来賓として、本部より中江顧問、支部を代表して高橋執行委員、そして青年部から永篤（ながとく）支部青年部長が参加した。中江顧問から、初代分科会長であった頃の想い出や苦労が語られ、「今こそ動労大改革、国鉄労働運動の戦闘的発展をかちとる時である。三里塚を闘う労働運動の真価が発揮される時だ。来年の船橋市議選には必勝を期して闘う」との力強い決意がのべられた。高橋執行委員からは「動労千葉総体が労働運動の先頭を担うためにも、検修は他分科会との共闘を強め闘ってほしい」とのべられた。

経過報告は、石渡会長から、「本部検・修分科会」結成に至る経過と「津田沼支部検・修分科会」の結成に至る経過が詳しく報告され、決算と共に承認された。

活動方針案として、①12月ゼネストをかちとり、②スト破り動労「本部」革マル一掃、③三里塚二期決戦勝利のために総決起しよう、④検修合理化粉砕の方針と体制強化、⑤年末～来春への当面する闘いの方針、組織・財政方針等が川崎事務長から提起され、続いて予算案が提起され、共に満場の拍手で承認された。

最後に、新会長に選出された椎津（しいづ）康男さんより「合理化攻撃の最先端で検修職場の我々がしっかり団結して闘う事の意義は大変大きい。全員でがんばっていこう」との力強い決意表明をうけ、意気高い団結がシュプレヒコール三唱で結成総会を成功裡に終了した。

選出された検・修分科役員

会長……椎津康男（検修36）
副会長……藤平富士夫（検査33）
事務長……結城敏之（検修21）
本部分科会執行委員……川崎冒浩（検修24）
〃 常任……渡辺敏博（検査38）

動労千葉・国労合同転場集会成功！

タレコミ・マル生分子＝革マル 嶋田に転場の怒りが爆発

支部検修分科と検査分科会では、合同に先だち、検修合理化への反撃、その体制強化を目的として、七月以降7回にわたる懇談会を開いてきた。この過程で具体的な反撃のための闘い、作業体制の見直し、職場抵抗体制づくり等がかちとられていった。それを国労の仲間とも共闘・討論し、数度にわたり話し合い、11月20日には、動労千葉、国労の検修転場合同集会の開催へとかちとっていった。

合同集会には、総勢百名を越す検修転場の仲間が結集し、検修合理化、とりわけ、臨調「緊急11項目」攻撃との具体的対決、現在の反動政治とどう闘いぬくのかを真剣に討議し合い、お互いの固い団結・共闘を誓い合った。

今、転場では当局の既得権剥奪攻撃に対する怒りと、不屈の抵抗闘争へと闘志が燃えている。

そして、それ以上の怒りが、むき出しのタレコミ分子・マル生分子として常に当局の手先をかって出ている動労「本部」革マル分子＝嶋田誠に対してにえたぎっている。嶋田は「仂こう運動」推進者にふさわしく、"闘うから攻撃がかかるんだ"と、闘いに敵対し、破壊ばかりを繰し、転場の仲間から連日弾劾され、転制に守られ逃げまわっている。我々は、国労の仲間と共闘し、更に闘いを強化する。